

## は し が き

『東アジア戦略概観』は、我が国唯一の国立の安全保障シンクタンクである防衛研究所を代表する定期刊行物として、今回で22年目の刊行を迎えた。日本語版と英語版を通じて、厳しさを増す東アジアの安全保障問題について、日本の戦略環境認識を国内外に発信する唯一無二の年次報告書として定着している。

本書は、日本の安全保障に影響を及ぼす周辺諸国の動きを定点観測した地域章と、東アジアの安全保障に関わる時宜にかなったテーマを取り上げるトピック章から構成されている。本号においては、北朝鮮による大陸間弾道ミサイル（ICBM）の開発と文在寅新政権の同盟政治、ドナルド・トランプ新政権の新たな国家安全保障戦略と北朝鮮政策、不確実性の中の日米同盟と日本の役割、権威を高める習近平政権と「世界一流の軍隊」を目指す人民解放軍、海洋安全保障における「航行の自由」の意義と課題などについて分析した。

編集方針として、文責を担う執筆者の氏名および分析根拠を示す脚注を明示することにより、研究者が独自に分析した学術専門書としての性格をより一層強めた。また、図表や写真、解説記事、略語一覧などを備えることで、東アジアの安全保障に対する一般読者の理解が進むよう配意した。

本書は、2017年1月から12月までの1年間における安全保障上の重要な事象について、防衛研究所の研究者が内外の公刊資料に依拠して独自の立場から分析・記述したものであり、日本政府あるいは防衛省の見解を示すものではない。また、本書に登場する人物の役職・肩書は、原則として記述する事象が生起した当時のものである。

本書の執筆は、兵頭慎治（序章）、原田有・永福誠也（第1章）、飯田将史・桐山博文（第2章）、渡邊武・小池修（第3章）、松浦吉秀・富川英生（第4章）、山添博史・秋本茂樹（第5章）、新垣拓・切通亮・菊地茂雄（第6章）、佐竹知彦（第7章）、が担当した。また、編集作業は、

秋本茂樹、切通亮、桐山博文、栗田真広、小池修、佐藤一也、杉浦康之、高橋一郎、田中極子、日向道、前田祐司、真辺祐子が担当した。

東アジアの戦略動向に世界の関心が集まる中、本書の内容が、東アジアの戦略環境に対する関心と理解を深め、日本がよりよい安全保障政策を追求するための知的議論の材料提供になれば幸甚である。

平成30年（2018年）3月  
防衛研究所 地域研究部長  
『東アジア戦略概観2018』編集長  
兵頭慎治